

## 第7回 沼津市リノベーションまちづくりシンポジウム

いまはないしごとに やがてつくきみたちへ

日時 平成 29 年 9 月 13 日 (水)  
19 時 00 分から 20 時 40 分まで  
会場 西浦地区センター

### 沼津市リノベーションまちづくりシンポジウム

2017.9.13 Vol.7

## いまはないしごとに

## やがてつくきみたちへ

三浦さんが代表を務めるスターパイロットが目指しているのは豊かな未来をつくること。未来のまちをつくるのは建築家や政治家ではなく、こどもたちひとりひとりであり、そういったこどもをひとりでも多く増やしたいと考えて空間の設計から運営、経営にも積極的に関わっています。

ありがたい「建築作品」をつくるのではなく、その場所、その人にあった最高の「物語と記憶」をつくる三浦さんの話を、こどもといっしょに聴きにきませんか？お待ちしております。



#### <会場>

西浦地区センター  
沼津市西浦立保 22-1

#### <日時>

9月13日(水)  
19:00 ~ 20:30 (18:30 開場)

#### <講師>

三浦 丈典 (みうら たけのり)  
スターパイロット 代表  
法政大学、早稲田大学非常勤講師



#### <プロフィール>

1974年東京都生まれ。ロンドン大学パートレット校ディプロマコース修了、早稲田大学大学院博士課程満期修了。

2001年～2006年まで NASCA 勤務。2007年設計事務所スターパイロット設立。

大小さまざまな設計活動に関わる傍ら、シェアオフィスや撮影スタジオも運営。

最近ではキッズカフェや産後ケア院など新しい建築プログラムの企画にも関わる。「道の駅 FARMUS 木島平」で 2015 年グッドデザイン金賞を受賞。

著書に「起こらなかった世界についての物語」、「こっそりごっそりまちをかえよう。」など。

申込 沼津市役所 まちづくり政策課

問合せ TEL:055-934-4886 E-mail:ppp@city.numazu.lg.jp

Facebook でも受付可能

facebook にて情報発信中

リノベーションまちづくり沼津

検索



第3回 リノベーションスクール@沼津 10月20日～22日開催!!

募集期間8月21日(月)～9月23日(土)!! 詳しくは Facebook にて!!

今回のリノベーションスクールでは、西浦地区を対象地域としたエリアビジネスユニット(西浦)が開催されます!

海、山、川の自然環境に恵まれた西浦地区の未来を、あなた自身が考え実践してみませんか?

まずはシンポジウムを聴くことから!!

主催: 沼津市 企画: 株式会社リノベリング 運営: 沼津市、株式会社リノベリング

## <当日の様子>

第7回沼津市リノベーションまちづくりシンポジウムは、スターパイロット代表 三浦文典さんをお招きし、「いまはないしごとに やがてつきみたちへ」と題して講演をいただきました。

今回はまちなかを離れて、豊かな自然や素晴らしい景観を有する西浦地区での開催とし、地元住民のほか、リノベーションや起業に興味ある方など約60人の方に参加いただきました。



生まれも育ちも東京で、三人兄弟の末っ子の三浦さん。自分が子供の頃に大きくなったら何になりたいかの変化と現在の仕事を合わせて、まずは自己紹介がありました。

世の中は、2000年をピークに人口減少となり、世の中の動きがこれまでの動きと真逆になっている。そして、ある予測では、2050年に日本の高齢化率は、世界一に君臨するという。さらに衝撃的なのが、人口ピラミッドであり、今の小学生が大人になる頃には、働いていない大人が半分という分析を元に、現在の状況と子供たちが大人になる頃の状況は、誰もが予測できなくなるとのこと。三浦さんは大学生のときに建築家になりたいと思っていたが、その当時の建築家の仕事量と、現在の建築家の仕事量を比べると、半分くらいに減っているという。

32歳で独立して設計事務所を開いたが、全然仕事がなく、一生懸命コンペのために模型を作るが、ことごとく仕事が取れない状況が続いた。武器だと思っていた有名大学や有名研究室などが、まったく武器にならない。そして、生活も苦しくなっていた。そんな中、タイミングよく、高校の同級生が大地主で、頼めば何とかかなると思い、借りられる物件を聞いたところ、築70年、前住人の家財が残り15年前のまま時が止まっていた物件を、住んでくれれば3年間無料と言ってくれたので、リノベーションして住み始めた。お金はなかったが、200万で65㎡のこの建物をリノベーションすることが出来た。通常、改修費は坪70から100万円かかるのが普通だと思っていたため、ある意味自分の中では、衝撃的だった。建築家の自分たちが仕事としてやること、そして自分がやったことについて、疑問を感じた。

32歳で独立して設計事務所を開いたが、全然仕事がなく、一生懸命コンペのために模型を作るが、ことごとく仕事が取れない状況が続いた。武器だと思っていた有名大学や有名研究室などが、まったく武器にならない。そして、生活も苦しくなっていた。そんな中、タイミングよく、高校の同級生が大地主で、頼めば何とかかなると思い、借りられる物件を聞いたところ、築70年、前住人の家財が残り15年前のまま時が止まっていた物件を、住んでくれれば3年間無料と言ってくれたので、リノベーションして住み始めた。お金はなかったが、200万で65㎡のこの建物をリノベーションすることが出来た。通常、改修費は坪70から100万円かかるのが普通だと思っていたため、ある意味自分の中では、衝撃的だった。建築家の自分たちが仕事としてやること、そして自分がやったことについて、疑問を感じた。

その後、実家の事情で、実家のビルの1階でシェアオフィスをつくりやり始め、出来るだけ外に向けて開放するようにしたことで、自分と入居者と近所の子供や親もハッピーになり、三浦さんはこれを「幸せの四重奏」と名付けている。誰か幸せになるためではなく、同時に色々な人が幸せになるための状況を考えるということが大切。そして、建物をまちに開くということは「そこにいてもいいんだよ」と周りから認められていること。自分が認めるのではなく、自分が開くことで周りが自分を受け入れてくれる感覚を覚えたという。大切なことは、専門的なことを閉鎖的に行うのではない。



三浦さんは、大学時代、建築家になりたいと思っていた。しかし、根源をたどると、カッコいい場所が作りたいという思いだった。そして、もっと考えてみると、楽しいまちに住みたい。そして、どんどんたどっていくと、未来のまちを楽しくする子供を増やしたいということだった。このように、根源的なものをたどり、枝をさがしていくと新しい仕事を探せることに気づき、建築家になるということにこだわらなくなった。



そして、最後に、「未来をつくる まちをつくる子どもたちへ 42の指令」として、メッセージを送ってくれました。